

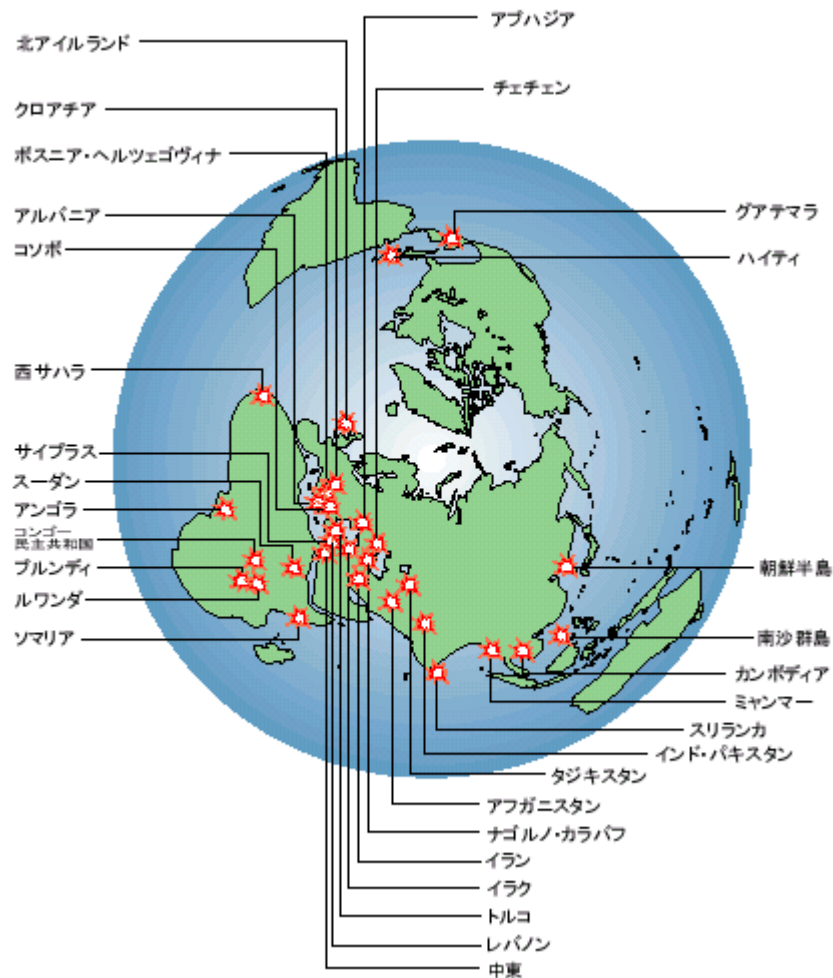
第1章 国際軍事情勢

第1節 国際軍事情勢概観

1 国際軍事情勢全般

冷戦終結後、世界的規模の武力紛争が生起する可能性は低下したが、複雑で多様な地域紛争が発生し、また、大量破壊兵器などの移転・拡散の増大が強く懸念されている。このように、国際情勢は、依然として不透明・不確実な要素をはらんでいる。

第1-1図 主な紛争・対立地域



これに対し、国連の活動や米露及び欧州における軍備管理・軍縮の動きなど国際関係の一層の安定化を図るためのさまざまな取組が進展している。

さらに、地域的な平和と安全の確保のため欧州などで地域的な安全保障の枠組みの活用や多国間・二国間の対話の拡大の動きが活発化している。

2 複雑で多様な地域紛争

武力紛争として、コンゴ共和国、ルワンダ、ブルンディ、アフガニスタン、カンボディアなどで内戦が見られた。

中東では、中東和平交渉の一定の前進は見られたものの現在は停滞しており、また、イラクが国連による大量破壊兵器などの査察を拒否する問題などが生じた。

インド、パキスタンは、本年5月に国際社会の批判にもかかわらず相次いで核実験を行い、南アジア地域の安全保障への影響のみならず、国際社会における大量破壊兵器などの不拡散のための取組などに対して深刻な影響を及ぼすことが懸念されている。

3 兵器の移転・拡散

近年、一部の途上国では、大量破壊兵器（核・生物・化学兵器）や弾道ミサイルを含む兵器の取得・開発が進められており、このような兵器の移転・拡散問題への対応が、国際社会の抱える緊急の課題となっている。

4 軍事科学技術のすう勢

軍事科学技術の進歩による著しい変革の可能性が生じ、技術的優位の確保の重要性がこれまで以上に増大しており、今後の国際軍事情勢を考えるに当たっては、かかる動向についても考慮する必要がある。